

令和2年度（2020年度）
京都市立芸術大学 音楽学部

入 学 試 験 問 題

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

お知らせ

令和2年度（2020年度）入試では、新型コロナウイルス対策の一環として、事前に実施予定として周知していた第二次試験のうち、音楽通論のみを実施しました。

本冊子では、第二次試験で実施する予定でした下記の試験について、課題曲が公表済みの副科ピアノ演奏を除き、参考として前年度（平成31年度）入試の問題を掲載しております。

【実施を見送った試験】

- ・聴音書取
- ・新曲視唱
- ・コーラルユーブンゲン視唱（声楽専攻のみ）
- ・ピアノ新曲視奏（ピアノ専攻のみ）
- ・副科ピアノ（ピアノ専攻以外）

目 次

第一次試験

作曲専攻	1
指揮専攻	7
ピアノ専攻	9
弦楽専攻	10
管・打楽専攻	13
声楽専攻	16
音楽学専攻	17

第二次試験

音楽通論	22
------	----

※下記は、副科ピアノ演奏を除き、前年度（平成31年度）入試の問題です。

聴音書取（旋律聴音）	30
聴音書取（和声聴音）	31
新曲視唱	32
コーラルユーブンゲン視唱（声楽専攻のみ）	33
ピアノ新曲視奏（ピアノ専攻のみ）	34
副科ピアノ演奏（ピアノ専攻以外）	36

令和2年度（2020年度）
音楽学部入学試験各専攻実技課題

作曲専攻

- （第1日）和声法：A ソプラノ課題：与えられたソプラノに和声をつけ、4声体とすること。
B バス課題：与えられたバスに和声をつけ、4声体とすること。
両課題とも記譜は次のa又はbのいずれかを選択すること。
a ソプラノ、アルト、テノール及びバス記号による。ト音記号は用いない。
b ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例（a,bによる記譜）は別記のとおり。試験時間各2時間30分

作品提出：自作品を1曲以上、試験当日に提出すること。（コピー譜を提出のこと。提出された作品は返却しない。）

- （第2日）二声対位法：与えられた全音符の定旋律に、対旋律をつくる。試験時間2時間

※注意 令和2年度（2020年度）入学者選抜要項で公表した試験時間（3時間）から試験時間を変更しています。

対旋律は、2分音符、4分音符、8分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の1～6の6通りが必要である。

- 1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
- 2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
- 3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
- 4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
- 5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
- 6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜移調してもよい。

記譜はa又はbのいずれかを選択すること。

- a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

実施例（aによる記譜）は別記のとおり。

- （第3日）作曲：与えられた素材により器楽曲を作曲すること。試験時間4時間30分

- （第4日）面接：各日の試験内容、及び提出作品について等の試問。

◎作曲専攻（第1日）和声法の実施例

*課題 |過去の出題（ソプラノ課題）より冒頭2小節|

Andante (♩=72ca.)

*記譜bによる実施例

Andante (♩=72ca.)

*記譜 a による実施例

Andante (♩=72 ca.)

◎作曲専攻（第2日）二声対位法の実施例

*記譜 a による実施例

定旋律

実施例

1

2

3

4

5

6

令和2年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（ソプラノ課題）

■ 次のソプラノの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。

記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。

a : ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b : ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Moderato (♩ = 76)

(試験時間 2時間30分)

令和2年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第一日：和声法（バス課題）

■ 次のバスの旋律に和声をつけ、四声体にしなさい。

記譜は、a. または b. のいずれかを選択する。

a : ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。

b : ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

Tempo di Sarabanda ($\text{♩} = 66$)

7

12

（試験時間 2時間30分）

第一次試験

令和2年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第二日：対位法

■次の全音符の定旋律に、対旋律を1つ作り、二声体としなさい。

対旋律は、二分音符、四分音符、八分音符と移勢（シンコペーション）を含む、いわゆる自由（華麗）対旋律によるものとする。

解答は、次の1-6の6通りが必要である。

- 1：定旋律をバスに置き、対旋律をソプラノに作る。
- 2：定旋律をバスに置き、対旋律をアルトに作る。
- 3：定旋律をバスに置き、対旋律をテノールに作る。
- 4：定旋律をソプラノに置き、対旋律をアルトに作る。
- 5：定旋律をソプラノに置き、対旋律をテノールに作る。
- 6：定旋律をソプラノに置き、対旋律をバスに作る。

なお、定旋律は、ソプラノとバスにおいて、適宜に移調してもよい。

記譜は、a.またはb.のいずれかを選択すること。

- a：ソプラノ、アルト、テノール、バス記号による。ト音記号は用いない。
- b：ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 2時間)

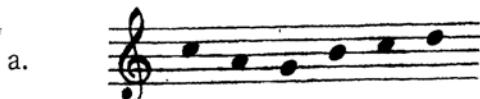


令和2年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

作曲専攻・第三日：作曲

◆次のa.b.どちらかの素材を選んで、二人以上の奏者のための器楽曲を作曲しなさい。



調性（無調も可）、拍子、速度、リズム、音域は自由とする。
なお、音列の各音に臨時記号を付してもよい。



調性（無調も可）、音程、拍子、速度は自由とする。
なお、明確な音程をもたない打楽器を選択することも可能である。

移調楽器に関しては、実音表記で書いてもかまわないが、
その際は、楽譜の冒頭にその旨を記載すること。
楽器編成に打楽器を含めることも可能である。

(4時間30分)

第一次試験

指揮専攻

- (第1日) 1 下記の楽曲の指揮をすること。演奏箇所は、当日指定する。(演奏は二台ピアノによる)
- (ア) L.v. Beethoven: 交響曲 第1番 ハ長調 作品21より第1楽章、第4楽章
- (イ) L.v. Beethoven: 交響曲 第2番 ニ長調 作品36より第1楽章、第2楽章
- (ウ) L.v. Beethoven: 交響曲 第4番 変ロ長調 作品60より第1楽章、第2楽章
- (エ) L.v. Beethoven: 交響曲 第7番 イ長調 作品92より第1楽章、第2楽章
- 上記、出版社は自由とする。
- 2 下記の楽曲による総譜視奏(スコアリーディング)
- (ア) L.v. Beethoven: 交響曲 第7番 イ長調 作品92より第2楽章
- (イ) 初見視奏(当日提示する管弦楽曲)
- 3 既に習得している楽器(ピアノ、弦楽器、管打楽器、ハープのうちいずれか1つ)若しくは声楽を演奏すること。その場合、楽器は各自持参すること。ただし、コントラバス、ハープについては、楽器を持参できない場合は、本学で用意するので、楽器を持参するか否かを願書に記入すること。マリンバについては、本学で用意する楽器を使用すること。なお、声楽を除きすべて無伴奏とし、演奏曲目を願書に明記すること。伴奏者は本学で用意する。ピアノで受験する場合も、第二次試験の副科ピアノ演奏を受験しなければならない。
- ※声楽選択者の伴奏用楽譜について
- 声楽を選択する場合、伴奏用楽譜を出願の際1曲につき2部ずつ提出すること。
- ・1ページの大きさはA4判とし、各ページが全開するよう横一連に綴じること。
 - ・表紙には曲名、調、氏名を明記すること。(表紙の右上部分には何も書かないこと。)
 - ・角型2号の封筒に入学願書等の提出書類を同封し、簡易書留・速達で郵送すること。
 - ・封筒には「入学願書在中」と明記すること。(入学願書等提出用封筒は使用しなくてもよい。)
- 4 和声法: 与えられたソプラノとバスの旋律に和声をつけ、4声体とすること。
(記譜はト音記号とヘ音記号の大譜表による。) 試験時間3時間
- (第2日) 面接を行う。

第一次試験

令和2年度

京都市立芸術大学音楽学部入学試験

指揮専攻：和声法

- 次のバス、およびソプラノの旋律に和声をつけ、四声部にしなさい。
記譜は、ト音記号とヘ音記号の大譜表による。

(試験時間 3 時間)

Choral ($\text{♩} = 60$)

7

mf mp f mp p

Moderato ($\text{♩} = 72$)

9

p mf mp mf p

第一次試験

ピアノ専攻

下記の楽曲を演奏すること。

(第1日) 1 ロマン派以降の作品から、練習曲以外の任意に選んだ作品。

(第2日) 2 F. Chopin: 練習曲作品 10 及び作品 25 から任意の 2 曲を選択し、第1日目に、本人による抽選で、演奏する 1 曲を決定する。

3 J. Haydn 又は M. Clementi 又は W. A. Mozart 又は L. v. Beethoven の、任意のソナタ一曲全楽章を選択し、第1日目に本人による抽選で、演奏する (1 つの、あるいは複数の) 楽章を決定する。

※注意 (1) いずれも暗譜演奏すること。

(2) 繰り返しは自由。但し、ソナタ形式の提示部については繰り返ししないこと。

(3) 演奏するすべての曲の作曲者、作品番号、楽章、調名を願書に明記すること。

(4) 1 については 7 分以上 12 分程度までとする。

(5) 1 については、変奏曲の抜粋は認めない。

(6) 2 について、以下の曲は除く。

作品 10 から 3, 6, 9 作品 25 から 1, 2, 7

(7) 2 について、作品番号にかかわらず 2 曲を選択することも可。

(例: 10-1 10-2 あるいは 25-4 25-5 あるいは 10-1 25-4)

(8) 時間の都合上カットすることがある。

弦楽専攻

下記の課題を演奏すること。

- ※注意 (1) 選択した曲目及び調名を願書に明記すること。
 (2) 全ての課題は伴奏なしで暗譜演奏すること。(繰り返し及びダ・カーポはしない。)
 (3) コントラバスについてのみ、楽器を持参できない場合は本学で用意するので、楽器を持参するか否かを願書に記入すること。
 (4) 時間の都合上カットすることがある。

*ヴァイオリン

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、その第1楽章と第2楽章(ただしLaloのスペイン交響曲においては第1楽章と第4楽章)を演奏すること。

M. Bruch: 協奏曲 第1番 ト短調 作品26

A. Dvořák: 協奏曲 イ短調 作品53

(Adagio ma non troppo から Finale の前までを第2楽章とする。)

E. Lalo: スペイン交響曲 ニ短調 作品21

F. Mendelssohn: 協奏曲 ホ短調 作品64

N. Paganini: 協奏曲 第1番 ニ長調 作品6

(オリジナル版により演奏すること。カデンツアはなし。)

C. Saint-Saëns: 協奏曲 第3番 ロ短調 作品61

J. Sibelius: 協奏曲 ニ短調 作品47

P. Tchaikovsky: 協奏曲 ニ長調 作品35

(第1楽章はカデンツアの前まで演奏すること。)

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第4番 ニ短調 作品31

H. Vieuxtemps: 協奏曲 第5番 イ短調 作品37

(カデンツアはなし。Adagio から Allegro con fuoco の前までを第2楽章とする。)

H. Wieniawski: 協奏曲 第1番 フィヘ短調 作品14

(第1楽章はカデンツアの前まで演奏すること。)

H. Wieniawski: 協奏曲 第2番 ニ短調 作品22

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8, 9, 10 ただし No.6～No.9 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8, 9, 10 は4分音符単位(16分音符4個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は No.5 はメトロノームで4分音符 = 80 以上、No.6～10 は8分音符 = 60 以上で演奏すること。

2 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

P. Rode: 24Caprices

J. Dont: Etüden und Capricen 作品35

N. Paganini: 24Caprices 作品1 (ただし17番冒頭及び24番の繰り返しはすること。)

第一次試験

*ヴィオラ

(第1日) 下記の中から、いずれか1曲を選択し、演奏すること。

Carl Stamitz:協奏曲 ニ長調 作品1 第1楽章及び第2楽章(版は自由とする。カデンツアを除く。)

J. Christian Bach:協奏曲 ハ短調 第2楽章及び第3楽章 (SALABERT版を使用すること。カデンツアを含む。)

A. Hoffmeister:協奏曲 ニ長調 第1楽章及び第2楽章(IMC版を使用すること。カデンツアを除く。)

C. M. v. Weber: Andante e Hungarian Rondo (IMC版を使用すること。)

M. Reger: Suite 作品131d No.1 第1楽章及び終楽章

G. Enesco: Concert piece

(第2日) 1 C. Flesch: Scale System より No.5, 6, 7, 8

ただし No.6, 7, 8 は最初の4小節のみとする。

○調性は任意であるが、全て同一の調性であること。

○リズム及びボウイングはハ長調に準ずる。ただし No.6, 7, 8 は8分音符単位(16分音符2個分)で、スラーをかけることとする。

○速度は任意である。

2 B. Campagnoli: 41 Caprices 作品22 より任意の1曲を選択し演奏すること。(版は自由とする。)

*チェロ

(第1日) 任意の協奏曲より第1楽章又は最終楽章を演奏すること。

(第2日) 1 J. Loeb の Gammes et arpèges (Billaudot版) を参照のうえ、変ニ長調による下記 (a) から (f) までの課題を演奏すること。

(a) 4オクターヴにわたる単音の音階(スラーは1弓8音 \downarrow = 100以上)

(b) 4オクターヴにわたる単音分散3度の音階(スラーは1弓8音 \downarrow = 100以上)

ハ長調の例



(c) 4オクターヴにわたるアルペジオ(スラーは1弓6音 \downarrow = 60以上)

(d) 2オクターヴにわたる重音3度の音階(スラーは自由 \downarrow = 80以上)

(e) 2オクターヴにわたる重音6度の音階(スラーは自由 \downarrow = 80以上)

(f) 2オクターヴにわたる重音8度の音階(スラーは自由 \downarrow = 80以上)

(注) (d) (e) (f) の音階を始める音域は任意とする。また運指は全て自由とする。

2 J.Duport: Etudes より任意の1曲を演奏すること。

※上記全ての課題曲の版は自由とする。

第一次試験

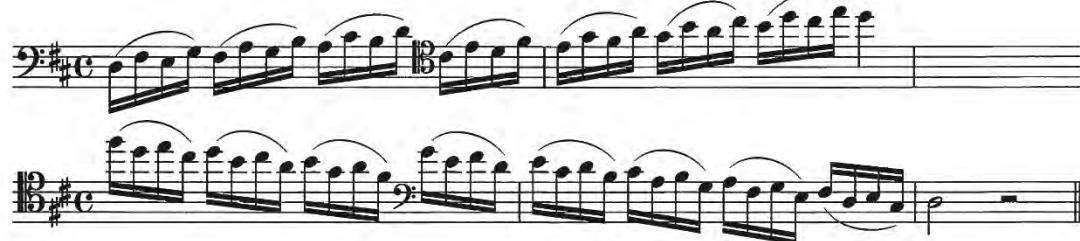
* コントラバス

- (第1日) 任意ソナタの第1楽章及び第2楽章又は協奏曲の第1楽章を演奏すること。
- (第2日) 1 下記(a)～(d)までの音階及びアルペジオの課題を演奏すること。(速度は自由。スラーの変更可。)
- 2 B. Marcello: Six Sonatas 第6番より第1, 第2楽章(Adagio, Allegro)を演奏すること。

(a)



(b)



(c)



(d)



管・打楽専攻

以下の楽曲を演奏すること。

- ※注意 (1) 下記の第1日の暗譜演奏の指示のない課題曲の楽譜は各自持参すること。(本学で楽譜は用意しない。)
(2) 下記の第2日の楽曲は、いずれも暗譜演奏すること。(繰り返しはしない。)
(3) 伴奏者は、いずれも本学において準備するので、同伴しないこと。
(4) 時間の都合上カットすることがある。

*フルート

- (第1日) E. Köhler: 12 Medium Difficult Exercises 作品33 第II巻の中から当日指定する曲(版の指定なし。)
(第2日) W. A. Mozart: 協奏曲 第1番 ト長調 K.313 (K6.285C) 第1楽章(カデンツアを除く。)

*オーボエ

- (第1日) W. Ferling: 48 Etudes op.31 (Gerard Billaudot版) より第11番, 第14番, 第19番, 第21番, 第26番, 第33番, 第35番, 第36番, 第40番, 第44番の中から当日指定する曲
(第2日) J. Haydn: 協奏曲 ハ長調 Hob. Vllg: C1 第1, 第2楽章 (Breitkopf版)

*クラリネット

- (第1日) C. Rose: 32 Etudes (Alphonse Leduc版) より第7番, 第8番, 第11番, 第13番, 第18番, 第20番, 第23番, 第26番, 第27番, 第30番の中から当日指定する曲。
(第2日) 1 R. Eichler: Scales for Clarinet (KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC)の各調1・2番をレガート, スタッカートで演奏すること。(当日指定する調を暗譜で演奏すること。)
2 Carl Maria von Weber: Concertino Es-Dur 作品26

*ファゴット

- (第1日) J. Weissenborn: Fagott Studien 作品8 第2巻より第1番から第15番までの間から当日指定する曲(繰り返しなし, 版の指定なし)
(第2日) G. P. Telemann: Sonata f-moll 第1楽章, 第2楽章(版の指定なし。)

*サクソフォン

- (第1日) W. Ferling: 48 Etudes pour tous les saxophones (Alphonse Leduc版) より第7番, 第14番, 第17番, 第22番, 第29番, 第30番, 第31番, 第36番, 第43番, 第48番の中から当日指定する曲
(第2日) A. Grazounov: Concerto en mi bemol (Alphonse Leduc版) 冒頭から練習番号第16番まで演奏すること。

*ホルン

- (第1日) C. Kopprasch: Sixty Selected Studies (C. Fischer版, 繰り返しなし) より第7番, 第12番, 第13番, 第15番, 第16番, 第19番, 第23番, 第25番, 第27番, 第28番の中から当日指定する曲
(第2日) W. A. Mozart: 協奏曲 第4番 変ホ長調 KV.495 全楽章より当日指定(ただし第3楽章は第99小節目まで, カデンツアなし)

* トランペット

- (第1日) 1 E. F. Goldman : Practical Studies for the Trumpet より第19番 Cadenzas の中から当日指定する曲 (C. Fischer 版)
2 OSKAR BOEHME : 24 MELODIC STUDIES in all tonalities Opus20 より第13番～第24番の中から当日指定する曲
なお、曲を演奏する前に、それぞれの調の音階を最初はテヌートで、リピート後は最後の分散和音までスタッカートで一息で演奏すること。
- (第2日) G. Alary : Morceau de Concours

* トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第10番、第13番、第15番、第17番、第19番、第21番、第22番、第25番、第31番、第38番、第39番、第40番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし)
(第2日) F. David : Konzertino 変ホ長調 Op.4 第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

* バス・トロンボーン

- (第1日) Kopprasch : 60 Etudes for Trombone (全音楽譜出版社) より第11番、第13番、第17番、第20番、第21番、第22番、第26番の中から当日指定する曲 (繰り返しなし。第13番、第17番、第22番はオクターブ下で演奏すること)
Ostrander : Melodious Etudes for Bass Trombone (C. Fischer 版) より第6番、第10番、第16番の中から当日指定する曲
(第2日) F. David : Konzertino 変口長調第1楽章 (Zimmermann 版を使用すること。練習番号 D まで演奏)

* チューバ

- (第1日) 1 C. Kopprasch : 60 Selected Studies より第5番、第7番、第8番、第9番、第10番、第11番、第12番、第13番、第14番、第15番の中から当日指定する曲
2 M. Bordogni : 43 Bel Canto Studies より第2番～第10番の中から当日指定する曲
(第2日) W. S. Hartley : Suite for Unaccompanied Tuba (Elkan-Vogel 版) より第1楽章、第2楽章、第4楽章

第一次試験

*打 楽 器

打楽器 (A), 打楽器 (B) のいずれかを選択して演奏すること。(A, B いずれを選択したか, また A については選択した曲名を願書に明記すること。小太鼓については立奏, 座奏いずれも可。両日とも小太鼓およびスタンドは持参すること。)

打楽器 (A)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より, 第6番, 第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag)
より, 第25番, 第28番, 第29番, 第30番の中から当日指定する曲
(ウ) 下記の楽曲の中から一曲を選択し, 本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。
J. S. Bach : ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001
J. S. Bach : パルティータ 第1番 口短調 BWV1002
J. S. Bach : ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003
J. S. Bach : パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004 より Ciaccona
J. S. Bach : ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005
J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

(第2日) 第1日目の (ウ) に同じ

打楽器 (B)

- (第1日) (ア) A. J. Cirone : Portraits in Rhythm より, 第6番, 第15番の中から当日指定する曲
(イ) Heinrich Knauer : Kleine Trommelschule (Friedrich Hofmeister Musikverlag)
より, 第25番, 第28番, 第29番, 第30番の中から当日指定する曲
(ウ) Siegfried Fink : Trommel-Suite より Intrada Toccata Mista Marcia (暗譜で演奏すること。)
(エ) J. S. Bach : パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006 より Bourée Gigue (本学で用意するマリンバで演奏すること。版の選択は任意。暗譜で演奏すること。)

(第2日) 第1日目の (ウ) に同じ

声楽専攻

(第1日) 自由曲：歌曲あるいはアリア1曲（宗教曲も含む）。演奏時間は4分程度とする。ただし、課題曲以外のものを選ぶこと。

(第2日) 課題曲：下記の15曲の中から各自4曲を選ぶこと。その中から当日2曲を指定する。

(1) G. Caccini	Tu ch'hai le penne, Amore
(2) C. Monteverdi	Lasciatemi morire !
(3) A. Scarlatti	Toglietemi la vita ancor
(4) M. A. Cesti	Intorno all'idol mio
(5) G. B. Pergolesi	Nina
(6) G. Paisiello	Nel cor più non mi sento
(7) D. Cimarosa	Bel nume che adoro
(8) G. Donizetti	La lontananza
(9) F. P. Tosti	Sogno
(10) S. Donaudy	Spirate pur,spirate
(11) W. A. Mozart	An Chloe
(12) L. V. Beethoven	Ich liebe dich so wie du mich
(13) G. Fauré	Lydia
(14) 山田耕筰	鐘が鳴ります
(15) 団伊玖磨	はる

※注意

- (1) 試験の際の演奏は暗譜とする。
- (2) 曲はすべて原語で演奏することが原則であるが、慣例として認められている訳語は可。
- (3) 自由曲で、オペラ及びオラトリオ等のアリアは原調によるものとするが、慣例として移調されて歌われるものはその限りではない。
- (4) 選択した曲名、作曲者名及び調性を願書に明記すること。（提出後の調性の変更は認めない。）
- (5) 自由曲及び課題曲については、時間の都合上、カットすることがある。
- (6) 伴奏者は、両日とも本学において準備するので、同伴しないこと。

令和2年度（2020年度）
 京都市立芸術大学音楽学部入学試験問題
 音楽学 英語

1. 次の文章を読んで設問に答えなさい。

It may seem like common sense to describe a musical work as a collection of individual but connected notes of different pitches and lengths, but such a (x) doesn't allow for sounds that can't be reduced to what we conventionally handle as notes. All the details involved in a voice singing a melody, with all the subtle quality of intonation and timing this entails, can't be boiled down to 'notes' as we conventionally know them. At the most, notes are merely the written starting point for certain types of singers, the outline within which a complex and unique performance will occur.

Naturally this depends to varying degrees on the kind of notation used, and whether the notation is used as a performing instruction or as a transcription for the purposes of listening along. It's not difficult to see, though, that the most common system, Western classical notation is (y) to describe most of the sounds that can be created in much practical detail or at a level of detail we may wish to express. These may be sounds we might want to incorporate into music, and modern music technology makes it much easier for us to do this. Such sounds—sounds beyond notes (i)—have always been an important part of music, even if the dominating influence of Western classical notation has made it easy for us to forget this, rendering us less aware of them and disinclined to use them with detail. Sounds beyond notes are especially important now, in the age of recording and electronic music, when sound is being manipulated in ways that previous generations of composers and listeners were probably unable to imagine. (ii)

(Adam Harper. *Infinite Music: Imagining the Next Millennium of Human Music-Making*. Winchester, UK: Zero Books, 2010)

(1) 空所(x)を埋めるのにもっとも適切な語を選んで、その記号を書きなさい。
 A. transcription B. description C. inscription D. prescription

(2) 空所(y)を埋めるのにもっとも適切な語を選んで、その記号を書きなさい。
 A. international B. incredible C. invisible D. insufficient

(3) 下線(i)のsounds beyond notesとは何であるか簡単に説明しなさい。

(4) 下線(ii)の主張について、賛成か反対かを述べ、その理由を簡単に述べなさい。

2. 次の文章の内容を日本語で要約しなさい。

Any physical theory is always provisional, in the sense that it is only a hypothesis: you can never prove it. No matter how many times the results of experiments agree with some theory, you can never be sure that the next time a result will not contradict the theory. On the other hand, you can disprove a theory by finding even a single observation that disagrees with the predictions of the theory. [...] A good theory is characterized by the fact that it makes a number of predictions that could in principle be disproved by observation. Each time new experiments are observed to agree with the predictions, the theory survives and our confidence in it is increased; but if ever a new observation is found to disagree, we have to abandon or modify the theory.

(Stephen Hawking. *A Briefer History of Time*. New York: Bantam Dell, 2005)

【註】

provisional = 暫定的、一時的

disprove = 反証（誤りであることを証明）する

hypothesis = 仮説

predictions = 予測

contradict = 矛盾する、相反する

3. 次の文章を読んで設問に英語で答えなさい。

You are just 10% human. For every one of the cells that make up the vessel that you call your body, there are nine impostor cells hitching a ride. You are not just flesh and blood, muscle and bone, brain and skin, but also bacteria and fungi. You are more ‘them’ than you are ‘you.’ Your gut alone hosts 100 trillion of them, like a coral reef growing on the rugged seabed that is your intestine. Around 4,000 different species carve out their own little niches, nestled among folds that give your 1.5-meters-long colon the surface area of a double bed. Over your lifetime, you will play host to bugs the equivalent weight of five African elephants. Your skin is crawling with them. There are more on your fingertip than there are people in Britain. You are not an individual but a colony. (A)

Disgusting, isn’t it? We are surely too sophisticated, too hygienic, too evolved to be colonized in this way. Shouldn’t we have shunned microbes, like we did fur and tails, when we left the forests? Doesn’t modern medicine have the tools to help us evict them so that we can live cleaner, more healthy, independent lives? Since the body’s microbial habitat was first discovered we have tolerated it, as it seemed to do us no harm. But unlike the coral reefs, or the rainforests, we have not thought to protect it, let alone to cherish it. (B)

[...]

Our 100 trillion microbes could not call us home if they brought nothing to the party. Our immune systems fight off germs and cure us of infections, so why would they tolerate being invaded in this way? (C)

(Alanna Collen. *10% Human: How Your Body's Microbes Hold the Key to Health and Happiness*. New York: Harper, 2015)

【註】

vessel = 船、容器

impostor = 偽物

fungi = 菌類

coral reef = サンゴ礁

intestine = 腸

niches = 生存できる場所

colon = 結腸

rainforest = 热帯雨林

colony = 植民地、共同体

hygienic = 衛生的

microbes = 微生物

evict = 立ち退かせる

habitat = 生息地

immune systems = 免疫系

tolerate = 許容する

(1) Why does the author say that "you are not an individual but a colony"? (see underlined sentence A)

(2) What is the difference between our attitude toward the body's microbial habitat and our attitude toward coral reefs or rainforests? (see underlined sentence B)

(3) Why do you think our immune systems have tolerated the 100 trillion microbes that live in our bodies? (see underlined sentence C)

令和2年度（2020年度）
京都市立芸術大学音楽学部入学試験問題
音楽学 小論文

下記の問題 [(1)(2)の両方] に答えなさい。
※解答用紙のおもて面に(1)、裏面に(2)を答えなさい。

- (1) あなたが一番好きな音楽について、その音楽を知らない人にも特徴が伝わる
ように、できるだけ具体的に説明しなさい。
- (2) 次の七つのことばの中から三つ以上を使って、音楽について自由に論述しな
さい。
なお、初めて使う際には下線を引きなさい。

インターネット 声 ライヴ 自然 ピアノ 身体 楽譜

音楽学専攻 出題意図

➤ 英語

1. 長文の英語の内容や構造を的確に把握することができるかどうか、また音楽的な内容を正確に理解できるかどうかをみた。
2. 短い英文の意味内容を正しく理解し、その全文を文脈にそって適切な日本語に要約する能力をみた。
3. 英語の文章の内容を十分に把握した上で、英語の設問に英語で的確に答えることのできる理解能力と作文能力をみた。

➤ 小論文

- (1) 音楽を対象化し、その特徴をどの程度的確にことばで伝えることができるか、その記述力を主にみた。それと同時に、音楽の特徴を適切に捉える分析力も合わせて問うた。
- (2) 提示された語群の中から指示された数の語を選択し、それらを用いて任意の内容の文章を記述させることを通して、それぞれの語の意味を的確に把握する能力、選択した語を組み合わせて音楽に関する独自のテーマを設定する能力、および論理的で説得力ある論述を行う能力をみた。